

第11期 第2回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】平成30年(2018年)12月12日(水)9時30分から11時15分まで

【場 所】豊中市立中央公民館 1階集会場

【出席委員】渡辺委員 花嶋委員 下村委員 原田委員 中澤委員 岡田委員
神保委員 吉田委員 長谷川委員 新開委員 米田委員 澤村委員 大西委員
(15名中13名出席：有効に成立)

【傍聴者】0名

【事務局】河本、井藤、勝井、吉村、吉島、溝口、中川、岡本、渡邊、内田、北野、松本、
豊田、大道、池田、鈴木、三浦、中西

【オブザーバー】鈴木(豊中市伊丹市クリーンランド事務局長)

1. 開会宣言(事務局)

2. 配付資料確認

第11期 第2回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事次第

資料1-1 第1回豊中市廃棄物減量等推進審議会の振り返りについて

資料1-2 2020ごみ減量プラン平成29年度(2017年度)事業評価報告書 概要版 修正版

資料2 2020ごみ減量プラン平成29年度(2017年度)事業評価報告書 本編

資料3-1 第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理(案)について

資料3-2 ハッピー(8%)ごみ減量プラン平成30年度(2018年度)事業評価報告書 速報版イメージ

資料3-3 ハッピー(8%)ごみ減量プラン平成30年度(2018年度)事業評価報告書 確定版イメージ

資料4 第11期豊中市廃棄物減量等推進審議会平成31年度(2019年度)審議日程

当日差替え資料：資料2(1、8、42ページ) 資料3-1

3. 出欠確認および署名委員指名

本日の会議は公開ですので、よろしくお願ひします。傍聴希望者は0名です。委員15名の内、13名が出席されていますので過半数に達しており、審議会規定第6条により本日の会議は有効に成立しています。議事録署名委員については、原田委員と澤村委員に担当していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

4. 審議

案件1. 第1回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返りについて

○会長

それでは審議案件に入ります。案件1「第1回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り」について事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料1-1、1-2に沿って説明)

○会長

ただ今事務局から説明がありましたが、ご意見等ないようでしたら次の案件に進みたいと思います。何か確認されたい点などあればお願いします。

《一同了承》

案件 2. 第 3 次豊中市ごみ減量計画の総括（案）について

○会長

続きまして「第 3 次豊中市ごみ減量計画の総括（案）について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

（資料 2 に沿って説明）

○会長

ただ今事務局から説明がありましたが、図表の分かりやすさ、総括の内容を中心にご質問、ご意見などございましたら、ご発言をお願いします。

○委員

P35 のごみの量において、第 3 次の平成 32 年度（2020 年度）の目標値が 92,308t は理解しているが、第 4 次の計画において、平成 39 年度（2027 年度）の目標値が約 95,000t となっているのはどういったことか。

○事務局

第 3 次の計画では、人口が平成 32 年度（2020 年度）に、約 35 万人に減少すると推計し目標値を設定しています。第 4 次においては、平成 39 年度（2027 年度）に人口が 40 万人弱となる推計を立てており、目標値を設定している。

○会長

全国的にはめずらしく、豊中市の人口は微増傾向にあるため、ごみの量としては、目標値が増えた形となっているが、市民 1 人 1 日あたりの量は削減するよう設定していることをご理解していただきたい。

○委員

市民としては、事業評価報告書の概要版を目にする機会が多いので、グラフの数値が目標に向かっているのかいないのか、見た目でも分かりやすく表現していただきたい。

○会長

実績値が増えれば良いのか、また減れば良いのかという表現にすると分かりやすい。

○委員

ごみ減量PRキャラクターのリサビットが、目標を達成するとどのような姿になるのか、またどの様な取組みを進めるとめざすべき姿になれるのか表現すると面白いと考える。

○委員

P41に「廃棄物減量等推進員と連携し」とあるが、第4次の計画とも関連していると思う。廃棄物減量等推進員の取組みとして、ごみ減量に係わる情報を自分が住んでいる集合住宅で広めている。このような取組みが豊中市全域に広がれば家庭ごみの減量が推進できると考える。例えば、3切り運動の推進として、「使い切り」「食べ切り」「水切り」を実践することやフードドライブ活動、雑がみの分別など、このほかにも豊中市伊丹市クリーンランドや大阪湾広域臨海処分センター（フェニックス）の施設見学をするなど様々な取組みを進めている。このようなことが評価され、とよなかエコ市民賞を受賞している。廃棄物減量等推進員と協働して施策に取り組み実践することでごみの減量につながるとつくづく思っている。

○委員

良い方向に進んでいることを記載、表現してもらいたい。

○会長

グラフへの記載内容の追加は情報量が多くなり困難であると思うが、リサビットを使った表現ができないか検討はできると思う。

○事務局

リサビットの活用につきましては、第1回の審議会でもご意見があり、ストーリー性を持たせてリサビットの姿がどのように進化していくのか検討したい。また、グラフの表現については、目標に近づいているかどうか視覚的に分かるように表現できないか検討する。

○会長

委員からの発言で、廃棄物減量等推進員の取組みがあったが、このような地域の取組みを記事にした方が良いと考える。

○委員

事業評価報告書概要版のリサビットの表現だが、リサビットの表情が変わっているので、プラカードの顔の表現はメッセージを記載した方が良いのではないかと考える。

○委員

P52 ページの第4次の計画はどのように公表されているのか。また、市民等は計画の概要版を見る機会が多いと思われるので、市民1人1日あたり28g削減の目標を達成するため具体的な取組み方法を記載すれば分かりやすい。例えば市民1人1日あたりリンゴ1つ分のごみを減らすなど、またリサイクル率についても表現が難しいと思うが、個人や事業主がどの程度実践すれば目標が達成できるのか記載すると具体的な取組みにつながる。

○事務局

数値目標の具体的な取組み方法は、本日配布しているフレフレごみ減量通信にあるように、廃棄物減量等推進員の取組みとして、水切りの実証実験を記載し、減量目標の達成に向けた具体的な取組みの記事を掲載している。また、その取組みの効果がどのように見込まれるのか、焼却処理量の削減額を見込みとして掲載している。なお、先進的な他都市の事例に減らせるものの例をグラム数を用いて周知しているので参考にしたいと考えています。

○委員

資料に、年号の表記があるが、新年号になると対応はどのように行うのか。

○事務局

年号の切り替えにつきましては、その時期に書き換えられるものを対応すると思うが、全庁的な指示をもって調整する対応になると考えている。

○会長

市では、公表する際のルールはあるのか。

○事務局

計画の公表につきましては、公共施設に配架し閲覧できるようにしている。また、市のホームページでも掲載しています。

○委員

事業実施状況評価の総括表だが、No. 13. 21. 23. 29 などのように影響度は低いが高評価のもの表現が分かりにくい。

P35 の図だが、人口と関係性があるので、P36 の人口の図と合わすことはできないのか。

廃棄物減量等推進員の東豊中第2団地における取組み報告書をいただいた。その中には生ごみの乾燥に着目されており参考になると思う。レポートにはなかったが、取組みの広がりが課題となっている。行政として、取組みの広がりをどのようにサポートするのか考えをお聞きしたい。

○事務局

P15 の「事業実施状況評価の総括表、影響度は低いが高評価のもの表現が分かりにくい。」ということにつきましては、計画策定時に設定しているものであり、施策を総合的に評価する際の参考としています。影響度が低い割に実績値の成果が高くなっているのは、施策を進めるうえで影響度が増してきたと理解いただきたい。

P35 ページ、ごみの量のグラフと P36 ページ、人口のグラフは、第4次の計画作成時に組み合わせあったグラフがあったが、内容が複雑で分かりにくいとの指摘を受けたので、現状のままをしたい。また、P5 に評価シートの見方を掲載しているので、参考にしてください。

○委員

生ごみは水切りが良いと考えている。また、食品ロスを削減するために冷蔵庫の整理も効果があると思う。このような取組み方法を「ごみカレンダー」に記載すると広がると思う。

○会長

お二方のご意見としては、行政の発信ではなく、地域での取組みから出てきた内容と思うので、このような意見を取り入れていけば良いと考える。

○事務局

家庭ごみ事業課では、今年度、(11名)の廃棄物減量等推進員の方々にご協力をいただき、効果的な生ごみの水切り方法をレポートしてもらった。その結果を3月に全戸配布する「ハッピーごみ減量通信」に掲載し、廃棄物減量等推進員の活動として市民にお伝えできればと考えている。

○会長

フレフレごみ減量通信のお知らせに「プラスチック製容器包装に包丁を入れないでください。」と記載しているが、記事を読むと不燃ごみに入れるように案内している。文字ではなく、視覚的に訴えかけるよう、刃先にガムテープを巻き排出するような絵で表現すると分かりやすい。また、電池類についても電極にテープを張ることでショートするのを防ぎ収集車の車両火災や豊中市伊丹市クリーンランドのリサイクルプラザでの火災も抑制できる。このような分かりやすく実践しやすい内容で挿絵を利用して表現していただきたい。

また、大幅な変更は困難と考えるので、P35ページとP36ページが見開きになるように工夫していただきたい。

○事務局

P11をご覧ください。本文3行目の「ごみの量」「家庭系ごみの排出量」「事業系ごみ排出量」のいずれも、前年度比で増加という結果となり」とありますが、5行目以降、7行目に「平成29年度(2017年度)は、平成28年度(2016年)に比べて、減少傾向となっています。」とあり、記述が矛盾しているため、3行目の「家庭系ごみの排出量」は削除します。

案件3. 第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理(案)について

○会長

続いて「第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理(案)について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

(資料3-1、3-2、3-3に沿って説明)

○会長

ただ今事務局から説明がありましたが、資料3-2(速報版)を次年度の7月の審議会で、資料3-3(確定版)を1月の審議会で示すということですが、ご質問、ご意見などございましたら、ご発言ください。

記載内容としては、廃棄物減量等推進員の取組みやプラスチック類の現状、レジ袋の無料配布中

止の動向などを記載しても良いのかと思う。

○事務局

プラスチック類の現状についての記載ですが、今年度発行予定の「ハッピーごみ減量通信」に記事を掲載するように考えています。また、情報提供として、北摂地域でレジ袋の無料配布中止を趣旨とする協定を締結し実施されている。この内容についてさまざまなメディアに注目され取材があった。また、平成 30 年（2018 年）12 月 8 日には、阪急池田駅前等で廃棄物減量等推進員の協力のもと北摂地域共通マイバッグキャンペーンの PR 活動を行った。その様子がテレビ番組の「ガイアの夜明け」に取り上げられている。

○委員

廃棄物減量等推進員の水切りの取組みについてお話しがあったが、取り組んでいる団体の近隣で活動が広がっていない実態がある。

○委員

水切りの取組みをテレビで見たが、水を切った生ごみをビニール袋にこまめにまとめるのではなく、新聞紙等で水を切った生ごみを平たくして重ねると良いとされていた。

○委員

速報版の最後に QR コードが記載されているが、取組みの内容をユーチューブで配信できるよう URL を記載してはどうか。

○事務局

廃棄物減量等推進員の取組みが周知されていないとありましたが、全戸配布しているフレフレごみ減量通信にインタビュー形式で取組みを記載している。しかし、行政の発信は紙面での発信が多いため、ご指摘にある動画の活用について検討していきたいと考えています。

○委員

インドネシア第 2 の都市スラバヤでプラスチックカップ 10 個かペットボトルを 5 個まとめて持って行くとバスの利用料金が免除され、収集したペットボトルはリサイクル業者に売却し、収益はバスの運賃や市内の緑地関連の支出に充てられる取組みがあるようです。

○委員

計画の目標値だが、前計画と比べるとインパクトに欠ける設定となっているように思う。

○委員

フレフレごみ減量通信にレジ袋の無料配布中止の記事が掲載されている。マイバッグの持参率が実施後、急上昇している。協定締結していない事業者へは今後どのように取組みを進めていくのか知りたい。マイクロプラスチックが塩に含まれているという情報を得た。人体への影響も考えられるので、プラスチック類の削減について取組みを進めてもらいたい。

○事務局

第3次の計画の目標値は、焼却処理量とリサイクルプラザで破碎される不燃ごみなどを含んだ量で設定しているが、第4次の計画では、焼却処理量のみで設定としているので削減幅に差が出ている。

レジ袋の無料配布中止の取組みは、協定締結事業者と自治体で協議会を設置している。取組みの拡充に向けて協議会の事業計画を立てており、その中で協定を締結していない食品スーパーやドラッグストア、コンビニエンスストアへの働きかけを行うよう進めている。前年度に働きかけを行ってきた中で趣旨には賛同するが実施が困難とされた食品スーパーやドラッグストア、コンビニエンスストアには賛助会員として協議会に参加していただいている。今後、協定を締結して取組みを推進できないか改めて働きかけを行う。コンビニエンスストアについては、すでにフランチャイズチェーン協会においてマイバッグ持参率30%を目標に取り組んでおられる。

○委員

マイバッグの持参推進運動は15年前から取組みを進めており、ようやくレジ袋の無料配布中止につながる取組みとなった。

○委員

豊中市マイバッグ推進協議会に参加しているが、この3月に解散となる。

○委員

豊中市マイバッグ推進協議会は発展的解消となるが、この活動は今後も廃棄物減量等推進員で北摂地域における取組みが進められることや豊中エコショップ制度の運営でも協力していく方向で考えている。

○委員

計画の目標だが、設定しているごみの量と焼却処理量の違いが分かりにくい。解釈の仕方を説明してもらいたい。

○事務局

計画の目標ですが、第3次では、焼却処理量と豊中市伊丹市クリーンランドのリサイクルプラザで破碎等される量が含まれている。第4次では、焼却処理量のみで設定となっている。

○会長

計画の目標値として焼却処理量にこだわった考え方は、計画策定当初に想定していたより人口が増加していることから、非常災害発生時の災害廃棄物の受け入れを想定した余剰分も使っている状況となっている。このことから焼却処理量を減らすことが重要な課題としている。

○事務局

資料1-2と資料3-1を見比べていただくと分かりやすい。

○委員

第3次と第4次の目標設定の違いについて、コラム等で説明するようページを作ってください。

○会長

進行管理の内容については、次年度の作成に向けて意見を反映していただきたい。

案件4.「その他」について

○会長

最後に「その他」の案件について事務局からお願いします。

○事務局

(資料4に沿って説明)

○会長

全体を通してご意見がございますか。ないようでしたら本日の審議会はこれにて閉会とします。

5. 閉会